

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190900060		
法人名	株式会社ティーアート		
事業所名	グループホーム 季楽里ふあむ		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲1879番地21		
自己評価作成日	平成29年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年11月22日	外部評価確定日	平成29年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム長が看護師であることとスタッフが看護師と歯科衛生士であることから利用者様の健康管理や口腔衛生の面で医療機関と綿密に連携をとることができる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成29年4月に開設した1ユニットの事業所である。「敬愛」「感謝」「献身」の基本理念の基に、「個々に適した専門的な介護の提供を目指します」「朗らかに・おだやかに・共にこのひとときを」の実現に職員一同が心を一つにして、利用者の支援に臨んでいる。地元の「隣保班」にも加入して、積極的に地域と関わりを持っている。事業所内は自然光がさしこみ、静かで明るい。各居室がホールに向かって放射状的に配置されている。利用者は居室の扉を開けると、すぐそこがホールになっていて、日常の生活をしやすい構造になっている。ホールに面した中庭にはシンボルツリーの「もみじ」の植栽は四季の移り変わりが感じられ、憩いの場所ともなっている。ホームでの一日の流れは、利用者中心でゆったりとしている。職員は利用者を人生の先輩として敬い、その方の希望や心情を汲み取りながら、一人ひとりにあった支援を心がけている。ホームの周辺を散歩したり、温泉地でもある街なかに出かけ、足湯を楽しんだり、買い物をしたりしている。図書館に出かける方もいる。家族の面会時にも職員は気軽に声をかけ、訪問しやすい雰囲気である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲げた理念の復唱を毎朝行い、その理念に沿った実践が出来るよう努めている。	法人の基本理念を基にして、職員全員で協議して、事業所独自の理念を創っている。理念を毎朝復唱することによって、気持ちを改め、意識しながら日常の支援に臨んでいる。管理者は、理念を具体的に折にふれて指導もしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設後まもなく隣保班に加入し、ごみステーションの清掃や、地域の清掃活動に参加している。	地域の自治会(隣保班)の一員として総会や集会へも出席する。近くのゴミ集積所の掃除やクリーンデーでの空き缶拾い活動を行う等、地域での役割を担っていく努力をしている。回覧板によっても地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	未実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月から3回開催し、様々な意見を頂いた。実現可能な事から改善を図っている。	活動状況や課題、ヒヤリハット、今後の活動予定等の報告だけでなく、前回推進会議からの懸案事項に対する取り組みも協議する等、有意義な意見交換が行われている。地域活動への参加、自主防災を含む地域の特性を踏まえた災害避難対策、駐在所との連携等が提案され、早速運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への参加はまだ出来てなく、継続した関係にはないが、自宅へ退所になったケースで地域包括支援センターへ口頭ではあるが報告した事例はある。運営推進会議には毎回出席頂いている。	事業所開設にあたっては、行政と緊密な連携をとっている。運営推進会議の場で、運営の実情や課題等も報告し共有も図っているが、事業所から積極的に行政に出向いての協力関係づくりはこれからの課題である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束は行わない方針で家族やスタッフに周知を行っている。入院の際安全ベルト使用だった事例でも、入所後は未使用対応し不穩は見られなかった経験がある。	勉強会や研修会等で身体拘束の無い支援についての意識を高めている。職員は、身体拘束の与える弊害を十分に認識している。これまで拘束の事例はない。玄関からの出入りは、利用者を常に職員の視野の中に入れて見守っている。居室にはセンサーマットでなく、シルエットセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設準備時点で講習会の受講を済ませ、虐待防止についての学びを深め実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者講習においては成年後見制度についての講義を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明を行い、些細な事でも気になるようであれば相談に応じ理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	モニタリングや運営推進会議を通じ直接意見を頂いている。投書箱の設置は行っていない。	家族の面会時には、職員は必ず笑顔で対応し、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。職員の対応に常に留意している。利用者を一人ぼっちにしないことにレクリエーションに唱歌を取り入れ、本人の歌声が家族の耳に届いた等は、支援や運営に反映した一例である。声なき声に耳を澄ませ、今回の利用者家族等アンケートも早速、運営に活かす意向である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2金曜日のミーティングで意見を出し合い全員で検討している。	定例会議や毎日の朝会で、職員は代表者や管理者に意見や希望を十分に伝えている。職員間の意思疎通ができています。食事当番や手づくりおやつについての提案は、運営に反映された一例である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的なミーティングの参加や日頃職員とのコミュニケーションを図りながら職員の能力を引き出し評価へつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員へは外部からの情報を取り入れ、希望や個々に適切な研修内容を提供し、積極的に参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会をつくるため、グループホーム協会に入会し、機会があるごとに職員へ参加を実施している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を基にどんなことにニーズがあるのかを探り、人や環境に早く慣れる事が出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前情報を取り寄せ、家族からも直接ニーズを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族にはニーズを伺いそれに基づいたサービス計画書を作成している。他のサービス利用では当てはまるかわからないが、在宅酸素利用者のケースでは、受け入れ前に業者を迎え学習会を行い、操作を練習した。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話は同じ目の高さで行う事を心掛け、椅子に座りコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支えあうというほど、家族との関係は築けているか自信はないが、季節の変化に合わせた衣類の入れ替えや、病院受診の付き添い等機会あるごとに交流を図りながら関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直近の例では本人が大切にしている仏壇を持参してもらい、朝の供え物は協力している。	家族の協力で長年住み慣れた自宅の解体にあたり自宅まで案内する、長年馴染んだ美容室を利用する、買い物と一緒に出かける、図書館や本屋に行く、知り合いの面会、利用者の兄弟に顔を見せてもらうようお願いする等、いろいろと支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに於ける席替えは既に数回行い、折り合いが一番うまくよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当ケアマネジャー等を通じ日頃の様子を尋ね、その後についても情報収集もケースによっては行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家に帰れる保証をするために定期的な外出や外泊を家族の都合も見ながら行った。私物管理については自立支援を基本的に考え、今後の在り方を検討しているところである。	利用開始にあたって、まず暮らしの意向や希望を丁寧に聴いている。入居後も利用者の心に寄り添いながら、その心情や意向等の把握に努めている。帰宅願望が強い方との対話やつぶやき、行動等から、その心理や願いを読み解き、家族の協力で、心の充足を満たしている事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネジャーからの情報を基に、どんな暮らしぶりを把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ベッド上生活が多かった方には終日ホールで過ごす事は苦痛を伴うことを考慮し、体調を見ながら離床を進めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	先日の行政指導ではモニタリング、評価と再計画のプロセスについて指導を受けた。また個別性のある計画についても指摘を受けたところである。	利用者や家族の暮らしの意向を十分に踏まえた介護計画が練られている。利用者中心の計画で、特に短期目標やサービス内容は、柔軟に対処するためにも具体的で実現可能なものである。計画は、全職員が共通に認識している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は手書きの介護経過記録とパソコンでのケース入力・支援記録をそれぞれ行っている。これらを基に計画の見直しに役立てる必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これからの課題として捉えたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会とはボランティア受け入れの件で、警察の派出所とは巡回の実施依頼を行い、地元消防団とも避難協力について相談中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携については内科と歯科医院に依頼し、定期的に往診を受けている。	かかりつけ医は利用者や家族の希望の医療機関である。受診にあたっては、職員が送迎し、家族とは病院で落ち合っている。主治医の変更希望があれば、これまで築いてきたよい関係が切れないように、家族の判断を待ちながら時間をかけている。協力医療機関とは、何時でも相談や受診ができる関係にある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の関わりや観察する中で、小さな変化でも情報共有と報告を行い異常の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院においてはMSWや退院支援専従看護師との連携をその都度取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては家族にも理解を得ているが、看取りに関しては必要な研修を見実施ということもあり、現実的な対応はこれからの課題としている。	入居時に利用者と家族に納得のいく話し合いを行い、重度化した場合の支援についての了解を得ている。看取り介護については事業所が成熟した後の課題として、現在は慎重に考えている。看取りを経験するであろう職員の心の負担にも目を向けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時にAEDの操作説明を業者から受けた。急変時には連携病院への連絡体制を確立している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難時装着の氏名入りTシャツを準備し、その中に本人の基本情報を入れている。	消防計画に基づき、消防署の指導も受けながら年2回の避難訓練が計画されている。外部評価時点では既に1回目が実施されている。地元消防団や地域住民との協力関係も築かれつつある。運営推進会議で地域との自主防災ともからめて、災害対策は重要な協議事項になっている。	
年に					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	氏名の尊称はさん、又は様を用い会話は標準語で敬語を基本とする。記録物はフタッフ外の目に触れないよう配慮している。	基本理念の一つ「敬愛の心」が全職員に認識されている。利用者と暮すにあたり「人生の先輩方を敬う心」をもって日常の支援に関わっている。言葉を交わす際や呼びかけにも、語調や語尾にまで気を配っている。利用者の人生やその生き方、誇りを大事にしながらの日々の関わりである。個人情報に規約通り、きちんと保護されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お風呂に行きましようだけではなく、お湯の準備が出来ましたが、いかがいたしますかと促している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の病状・体調に合わせて1日を過ごしてもらっている。入浴や食事無理時しないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔には気を付けているが、身だしなみやおしゃれまでは至っていない。起床後の寝ぐせは夜勤者が髪を解いている。また爪切りや耳掃除、散髪は適宜対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皿洗い程度は1~2名の方に依頼したが、継続出来ていないのが現状である。	食材は宅配を利用し、ホームの台所で調理されている。高齢者向きの献立である。台所からの音やにおいには食事の楽しみを増している。利用者の「美味しいね」との声も聞かれ、ゆっくりと食事を楽しんでいる。食事用のエプロン使用は見られない。職員は、近くからそっと見守りながらの支援である。おやつは手造りで、利用者への愛情が感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の宅配サービスを利用しバランスの取れた食事提供を行っている。水分補給については、1日1000mlを目標に摂取を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその都度歯磨き誘導を一人一人に行っている。希望者には歯科の往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	3名の方については昼間のみリハビリパンツから布パンツに交換している。尿意の訴えがない方については、時間おきの誘導を行っている。	一人ひとりの排泄習慣やパターンが把握され、一人ひとりにあった支援ができています。何気ないトイレ誘導や時間を区切った交換、おむつを外す時間を長くする等の工夫をしている。入居後に排泄自立に向かった方も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝夕の運動と水分摂取、適切な下剤の服用でその予防と改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月水金と火木土のグループに分かれ、午前中に実施している。どうしても入れなかった方についてはその日の午後や翌日に変更することはある。夕方や毎日といった希望には応じていることは出来ていない。	週に3日の入浴を基本にしている。お湯の準備は毎日出来ている。入浴時間や入浴順は特別の決まりはなく、ゆっくりと入浴してもらっている。入浴の誘いは、「お湯が沸いていますよ」とやんわりとした言葉かけである。入浴を億劫に感じる方には柔軟に対応している。ヒートショックにも十分に配慮した入浴支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じ昼食後は休憩の時間を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基礎疾患に対する内服薬や処方変更時には看護師よりスタッフに必要な説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中に前職や特技等取り入れるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春までは花見や町中散策、買い物など外出していたが7月以降減少傾向。10月に入りボランティアの協力を得て、ドライブなど戸外に出る機会は少し増え始めた。	ホームの周りを散歩したり、温泉街でもある街中に出かけ、足湯を楽しんだり、趣味の手芸材料をお店で買い物をすることもある。公園まで出かけて気分転換をしたり、桜の花見等に出かけたこともある。町の図書館に行く方の支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持について詳細な取り決めはないが、多額にならないようにしている。6月までは買い物できる方が2名いたが、現在は不在となっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接間接この方法での連絡の支援は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間は全て明るくホールの天井は高く開放感ある構造となっている。	中庭は室内の三方から眺めることができ、シンボルツリーである「いろは紅葉」が植えられ、四季の移り変わりを感じることができる。また、ベンチで外気浴も楽しめる。大きな水槽を囲んだテーブルは、食卓の他にも何かと使い勝手が良い。静かで明るいホールから居室にはすぐに行けるユニット型の構造になっている。トイレ、浴室も極めて利用しやすく配置しており、広さも十分である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルは長方形で中央には観賞用の魚が入った水槽があり、一人でも過ごしやすい工夫がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電動ベッドと作り付けクローゼット、テレビ・エアコンを装備し持ち込みに制限は加えていない。	好みや馴染んだ品物の持ち込みに特に制限はない。家族の写真、時計、ご仏壇、夜具やお気に入りの服、テレビ、趣味の材料、その他色々なものが見受けられた。各個室がゆっくりと居心地良く過ごせる場所になる様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物たたみはその人に合わせて依頼するなど、その人のできる範囲やタイミングを考慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない